

洞爺湖有珠山ジオパークでは 防災・減災学習をサポートしています！！



実際に「触ってみる」のも大切な経験

昭和新山や有珠山周辺の災害遺構などの現地で学ぶ野外学習のほか避難所体験や火山について学ぶ防災・減災学習などへの「講師派遣」「ヘルメットの貸出」「学習素材の配布」を続けており、ふるさと学習や理科の授業に取り入れる学校が増加しています。

令和4年度は、9月現在で延べ350人の児童生徒が、自然災害について学びました。

子どもたちの感想を一部を紹介します。

洞爺湖有珠山ジオパークの大きなテーマのひとつに『火山との共生』があります。再び起こるかもしれない有珠山噴火に備え、過去に起きた噴火や災害について知ることが大切です。

そこでジオパーク推進協議会では、この地域で育つ子どもたちが学習できるよう、ジオパーク圏域内の学校などで行われる防災・減災教育をサポートしています。



現地をよく知る講師が案内します



災害遺構の現地学習



有珠山の周りには、日本でも数少ない「噴火災害遺構」がたくさん残され、学習に役立てられているよ！

子どもたちの感想（抜粋）

- ☆噴火の時に、音が出ない場合があると知って驚いた（小学3年生）
- ☆噴火は悪いことだけでなく、温泉ができたり、野菜や果物が採れる場所になったり、良いこともあった（小学4年生）
- ☆昭和新山の地面が暖かくてびっくりした（小学5年生）
- ☆噴火の危険性を学んだだけでなく、新しく知ったこともあったので、家族にも伝えたい（中学3年生）
- ☆噴火の兆候が現れたら逃げる。絶対に戻らない、面白半分で近寄らないようにしようと思った（中学3年生）
- ☆噴火の対策をしっかりと、自分や周りの人を守るようにしようと思った（中学3年生）
- ☆被災遺構を見て、噴火を経験していない私たちにもその怖さが伝わってきた（高校1年生）